

あおぞら



NPO 法人 あいかわ工房
 広報 VOL.46 2019.4.01
 編集 あいかわ工房編集委員会
 発行責任者 熊谷直丈
 TEL 046-281-1157



富山県の砺波地方は立山連峰となみか

らの雪解け水が富山湾に注ぎ込む肥沃な平野があります。広い平野の中に屋敷林に囲まれた農家が点在して、散居村と言われています。米農家ばかりでなく、

チューリップの栽培をしている農家も多く、花を付けた時期は素晴らしい光景が楽しめます。

しかし、生花を出荷するのではなく、球根を大きくして出荷するために花は咲いたらすぐに摘み取ってしまいます。ほんの一時しか見ることが出来ません。

この写真は砺波市のチューリップ祭り(とらなみ)で写したものと立山連峰の写真を合わせたものです。



愛川町観光キャラクター
 あいちゃん □

HAPPY BIRTHDAY



1 月生まれ



1 月生まれ



1 月生まれ



1 月生まれ



3 月生まれ



2 月生まれ



3 月生まれ

新年度を迎えるにあたって

理事長 瀧 亀久男

平成時代から令和時代に移り変わります。あいかわ工房の広報誌 あおぞら も関係者の努力により46号となりました。

新年度を迎えるにあたりまして、ご挨拶申し上げます。

あいかわ工房も指定福祉サービス事業として10年間の時を過ぎ、13回目の総会を迎えます、ここまです成長できたのも通所の皆様をはじめ職員、理事ならびに関係者の努力とご協力によるものと感謝しております。

平成時代に遭遇した出来事で特に印象に残っているのは、『津久井やまゆり園』で発生した殺傷事件で、関連する記事を切り抜いたスクラップブックも6冊となり書棚を大きく占めております。

最近の報道によりますますと裁判員裁判の初公判が来年の1月8日に決定し、判決は今年度中に言い渡される見通しとの事ですが、今一番気に掛かることはこの様な大事件も時間の経過で風化してしまうのではないかと、言うことです。一般論では八年経過すると風化が始まると云われております。神奈川県ではこの事件を契機に『ともに生きる』を具体化した神奈川憲章を制定しP Rに努めておりますが残念ながら認知度は5%程度との報道もあります。

私たちあいかわ工房でも具体的な対策をたてて実行して参りましたが、マンネリ化しないよう心掛けたいものです。

新年度を迎え世代間意思疎通がより進展するよう理事の一部交代を図りました。

運営の理念は『感謝の心』『少しの我慢』『思いやりの心』で設立時点の考えを継承して行きたいと考えております。
一歩一歩進みましょう

あいかわ公園でのお花見

今年の開花は早かったので、頃合いを見計らったつもりで、3月29日にあいかわ公園へお花見に行きました。開花から冷え込む日が続いたので、満開とまでは行きませんが、持って行ったお弁当を広げて楽しい一時を過ごしました。昼食後はダムの下まで散歩をして、エレベーターとインクラインに分かれて交流館の見学をしました。



福祉フォーラムを開催しました

障がい者理解促進事業として委託されまして2月2日に町の文化会館で開催しました。

講師にはスマートサバイバープロジェクトの特別講師佐藤敏郎さんをお願い致しました。

佐藤講師は東日本大震災の時に中学校の教師をされていて、次女の方が大川小学校で被災されて亡くなられました。その時ご自分の中学校では、生徒たちと避難をされていて交通通信が途絶えた中、数日後に奥様がやっとたどり着いて、ご息女の亡くなられたことを知らされたそうです。

その後、中学校では生徒たちに俳句を指導して被災後の気持ちの変化、立ち直る姿が描写された句集をまとめられたりされたそうです。そして、教師の職を辞して全国に災害に対する講演をされるようになったそうです。

災害時には障がい者の死亡率は健常者の数倍に昇るといふ統計が出ています。

愛川町は自然の豊かな素晴らしい場所が多い所ですが、急傾斜の崖や深い沢も多く震災時や、近年各地で発生しているバックビルディング現象による集中豪雨に見舞われた時には、大規模な土砂の崩壊や河川の氾濫、土石流が予想されます。

佐藤講師の講演に続いて、愛川町の危機管理室からハザードマップによる危険度の解説や対策の講義があり有意義な一日でした。



佐藤講師の貴重な体験談をお聞きすることが出来ました。

当日は100名もの方に参加して頂きました。



避難訓練 いつもは建物前の避難場所ですが、今回は発火場所を変更して、下の段の駐車場を避難場所にしました。職員の誘導に全員が落ち着いて行動出来ました。



みんなの時間

あいかわ工房では、就労継続支援を業務としています。その中に社会生活に適應できる訓練なども入っています。

そこで毎月一回午後からの時間を、みんなの時間として、色々な企画をしています。

3月1日のみんなの時間では、災害時に家族などの連絡方法について考えました。

NTTでは災害時に役立つ伝言ダイヤルがあります。ワーで伝言を録音したり、他の人がそれを再生して安否確認が出来るシステムです。

毎月1日と15日はこのダイヤルがオープンになって、誰でも自由にテストが出来ます。

ちようど1日なので携帯電話を持っている人には実際に練習をして貰いました。

また、チラシを持ち帰って家族の方達とも使ってみることを勧めました。

これまでも、健康に関して、食事に関してなど生活に役立つことを話し合ってきましたが、これから、より身近な事柄を掘り下げて皆さんのお役に立つように計画して行きたいと思っています。



災害用伝言ダイヤル 171

「あの人がいない」でおぼえよう171

●伝言の録音
171+1+ 自分の家の電話番号など

●伝言の再生
171+2+ 自分の家の電話番号など

このほか、災害用ブロードバンド伝言板や携帯電話各社の権質用伝言板もあります。






5月22日(水)は、春の屋外研修です

行き先は 千葉県のマザー牧場です 神奈川県福祉バスで行きます

福祉バスは3ヶ月前の申込で、申し込むところが多いと抽選になります、今回は抽選に1回外れて2回目に決まりました。ですから、なかなか予定を組むのに難しいです。

出発は朝早く 7時30分に文化会館の前をします。いつもあいかわ工房へ来る時の迎えの時間より2時間早く迎えに行きますから、準備をして下さい。

高速道路を通るので、トイレ休憩の場所が限られていますから、迎えに行く前に必ず家で済ませておいて下さい。走り出すと、朝の渋滞時間にもかかるので、なかなかトイレに着きません。

マザー牧場は東京湾アクアラインを通って行きますので、帰りには海の中にあるサービスエリアの海ほたる で休憩をしますから、海からの眺めやお土産物を買うなど楽しんで下さい。

マザー牧場は雨でも見られる所が何か所かあるので、雨が降っても行きます。雨の天気予報が出たら、雨具は皆さんで用意して下さい。車いすの方はレインコートを用意して下さい。

いつもの様に車内ではビンゴゲームをやります。面白い賞品を楽しみにして下さい。



編集後記

平成18年にNPO法人として認可されましたが、その前に身障協会の先輩が地域作業所として開設されました。

平成21年に障害福祉サービス事業所として再スタートを切り、ようやく10年を経過致しました。障害者自立支援法は18年に施行されて3年毎の給付費等の見直しの時で、当初は戸惑うことも沢山ありました。

しかし、優秀なスタッフが入って来てくれたおかげで、それまでの受注先に加えて、応援して下さいる企業様も増えて、利用者の皆様には、年々工賃を多く支払うことが出来ております。地域作業所時代から起算すれば、平成の半分をあいかわ工房は歩んで参りました。

当時からずっと通所して頂いている利用者の方も数名居られ、その他の方も長期間通所頂いている方が大勢いらっしゃいます。

住み慣れた町で、より豊かな生活が出来ます様にこれからも少しでもお役に立つよう職員一同気持ち新たに、令和の時代を歩んでゆきたいと思っています。

いつも、ご支援ご協力いただいている、企業様、関係機関の皆様には厚く御礼申し上げますとともに、今後ともご指導・ご協力をお願い申し上げます。

所長 熊谷直丈